

海上の杜技術士会 第19回 技術研修会

講演要旨

令和4年 5月28日

於：愛知県産業労働センター
ウインクあいち 1303会議室

海上の杜技術士会



海上の杜技術士会 第19回 技術研修会 次第

(令和4年5月28日 於：愛知県産業労働センター ウィンクあいち 13階 1303会議室)

14:00～ 14:15 技術研修会受付

14:15～ 14:20 開会のあいさつ 山里 剛史 会員 (S54卒)

14:20～ 15:20 基調講演 I
演 題 都市のオープンスペースと持続可能な社会
講 師 川口 暢子 先生
所 属 愛知工業大学工学部土木工学科 講師

15:20～ 15:30 質 疑 応 答

15:30～ 15:40 休 憩

15:40～ 16:40 基調講演 II
演 題 日本の地下空洞および浅所陥没事例について
講 師 小松 幹雄 先生
所 属 一般社団法人充填技術協会 常任理事専任

16:40～ 16:50 質 疑 応 答

16:50～ 17:00 理事あいさつ 伊藤 久也 会員 (S58卒)

※13:30～14:00まで「海上の杜技術士会 第12回総会」となります。
※会場の都合により受付開始までは、1303会議室周辺での待機はご遠慮下さい。



土木学会継続教育プログラム
認定番号：JSCE22-0488(2.4単位)

基調講演 I

都市のオープンスペースと持続可能な社会

講演者 川口 暢子 先生

(1) 講演要旨

人口減少・超高齢化により縮退する社会では、耕作放棄地や管理不足の森林が増えることにより、国土の生態的環境の劣化が懸念され、土地自然を維持するための管理負担は大きな課題になると考えられる。都市では、都市計画の中・長期的な土地利用施策において、集約型都市構造の推進が図られ、オープンスペースの管理のあり方は変化しつつある。近年では、新型コロナウイルス感染症の広がりにより、オープンスペースが質の高い都市生活・都市活動を提供する場として機能するための管理・運営のあり方について議論されている。

本講演では、主に名古屋市を例として、公園、街路、宅地内空地、空き地・空闲地、農地、河川等の様々な都市オープンスペースの維持管理に掛かる労力負担について解説し、高齢化に伴う将来の管理負担について官・民の両方の視点から議論する。また、利用者へのアンケート調査や滞在人口調査の結果を紹介し、今後の都市オープンスペースの管理・運営方策について考えてみる。

(2) 講師 Profile

氏 名：川口 暢子 (かわぐち のぶこ)

職 歴 等：2004年3月 愛知県立芸術大学美術学部デザイン専攻卒業
2004年4月 株式会社景観工学研究所
2016年4月 博士（工学）・名古屋大学大学院環境学研究科
2016年4月 名古屋大学未来材料・システム研究所 研究員
2020年4月 名古屋工業大学大学院工学研究科 研究員
玉野総合コンサルタント株式会社
2021年4月 愛知工業大学工学部土木工学科 講師
現在に至る

委員等経歴：松阪市「豪商のまち松阪」中心市街地土地利用計画検討委員会
名古屋市 金城ふ頭開発にかかる機能配置等検討業務委託
愛知県 あいち環境塾チーム活動等研修指導アドバイザー 他

著作・論文：“Labor Forces and Landscape Management - Japanese Case Studies”,
H. Shimizu, C. Takatori and N. Kawaguchi, Springer, 2016. 他

表彰 等：2017（平成 29 年度）年 日本都市計画学会論文奨励賞
2021 年度 環境共生学会論文賞

基調講演Ⅱ

日本の地下空洞および浅所陥没事例について

講演者 小松 幹雄 先生

(1) 講演要旨

日本全国には数多くの地下空洞が存在する。石炭採掘跡空洞や、戦中・戦後に都市近郊の燃料として採掘された亜炭採掘跡の空洞が代表事例である。その他、戦時中の地下壕や大規模採石空洞等も存在する。これらの地下空洞は地下で崩壊し、地表にまで影響し、災害として指摘される事例も多く見られる。

今回、全国に残存する代表的地下空洞を紹介すると共に、地下空洞に起因する地表面崩壊（浅所陥没）および浅所陥没発生に関わる研究事例について報告する。

(2) 講師 Profile

氏 名：小松 幹雄（こまつ みきお）

職 歴 等：昭和 47 年 3 月 名古屋大学理学部地球科学科 卒業

昭和 47 年 4 月 川崎地質株式会社 入社

平成 20 年 4 月 株式会社エーアイシステムサービス 入社

平成 22 年 5 月 一般社団法人充填技術協会 常任理事就任
(株式会社エーアイシステムサービス 兼務)

平成 24 年 4 月 一般社団法人充填技術協会 常任理事専任
現在に至る

資 格：技術士 応用理学部門（地質）

委員等経歴：地盤工学会中部支部

名古屋地盤図委員会(昭和 61 年～昭和 63 年)

地盤工学会

(地盤調査法)環境地盤調査執筆委員会(平成 6 年～平成 7 年)

土木学会 岩盤力学委員会

深地層における軟岩の評価に関する研究小委員会(平成 12～13 年)

日本応用地質学会 関西支部

丘陵地の調査研究委員会執筆委員(平成 9 年)

一般社団法人充填技術協会

技術委員会委員長(平成 22 年～令和 3 年)